



Nexus Dashboard とサービスの統合バックアップおよび復元、リリース 3.2.x

目次

新機能および変更された情報.....	1
統合バックアップの前後のバックアップと復元操作について.....	2
バックアップと復元が以前に実装された方法.....	2
ND 3.2.1 より前の ND のバックアップと復元.....	2
NDFC 12.2.2 より前の NDFC のバックアップと復元.....	2
NDI 6.5.1 より前の NDI のバックアップと復元.....	3
NDO 4.4.1 より前の NDO のバックアップと復元.....	3
統合 ND 3.2.1 リリースでのバックアップと復元の実装方法	3
ND 3.2.1 以降の ND のバックアップと復元.....	3
NDFC 12.2.2 以降の NDFC のバックアップと復元.....	3
NDI 6.5.1 以降の NDI のバックアップと復元.....	5
NDO 4.4.1 以降の NDO のバックアップと復元	5
リモートストレージロケーションの構成.....	6
暗号化キーの処理.....	9
ND およびサービス構成のバックアップと復元.....	10
ガイドライン.....	10
ND およびサービス構成のバックアップ	11
ND およびサービス構成の手動バックアップ.....	11
スケジュール バックアップの構成.....	12
バックアップ履歴の表示	14
ND およびサービス構成の復元.....	14
統合バックアップを使用して構成を復元した後のタスク	16

新規情報および変更情報

次の表は、この最新リリースまでの主な変更点の概要を示したものです。ただし、今リリースまでの変更点や新機能の一部は表に記載されていません。

リリース バージョン	特長	説明
• ND リリース 3.2.1 • NDFC リリース 12.2.2 • NDI リリース 6.5.1 • NDO リリース 4.4.1	統合復元 バックアップ および	このリリース以降、いくつかの例外を除いて、バックアップと復元は次の個々のサービスレベルで使用できなくなりました。 • Cisco Nexus Dashboard Insight（NDI） • Nexus Dashboard Orchestrator（NDO） • Nexus Dashboard Fabric Controller（NDFC） 代わりに、Nexus Dashboard（ND）レベルで統合バックアップと復元を使用できるようになりました。ND レベルで実行されるバックアップと復元は、ND の構成情報だけではなく、その ND で実行されているすべてのサービス（NDI、NDO、NDFC など）もバックアップします。 この記事では、ND レベルでのこの統合バックアップと復元プロセスについて説明し、以前に NDI、NDO、および NDFC レベルで提供されていた個別のバックアップと復元に関する記事を置き換えます。

統合バックアップの前後のバックアップと復元操作について

ND リリース 3.2.1 での統合バックアップと復元の実装方法をよりよく理解するには、ND 向けおよび個別のサービスの以前のリリースで、バックアップと復元がどのように実装されていたかを理解しておくが役立ちます。

- バックアップと復元が以前に実装された方法
- 統合 ND 3.2.1 リリースでのバックアップと復元の実装方法

バックアップと復元が以前に実装された方法

- ND 3.2.1 より前の ND のバックアップと復元
- NDFC 12.2.2 より前の NDFC のバックアップと復元
- NDI 6.5.1 より前の NDI のバックアップと復元
- NDO 4.4.1 より前の NDO のバックアップと復元

ND 3.2.1 より前の ND のバックアップと復元

ND 3.2.1 より前は、ND バックアップと復元には次の特性がありました。

- バックアップと復元を、ND GUI で **[管理 (Administration)] > [バックアップと復元 (Backup and Restore)]** に移動して実行しました。
- リモート バックアップ オプションがありませんでした。ローカル バックアップしか実行できませんでした。
- ND バックアップに使用できるバックアップ スケジューラがありませんでした。

NDFC 12.2.2 より前の NDFC のバックアップと復元

NDFC 12.2.2 より前は、LAN および SAN ファブリックで NDFC のバックアップと復元を使用できました。両方のタイプのファブリックの場合：

- バックアップと復元は、次の場合に NDFC GUI で実行できます。
 - NDFC 内の個々のファブリックを **[管理 (Manage)] > [ファブリック (Fabrics)]** に移動し、**[アクション (Actions)] > [バックアップの構成 (Configure Backup)]** をクリックするか、
 - NDFC 全体の場合は、**[管理 (Administration)] > [バックアップと復元 (Backup and Restore)]** に移動します。NDFC 全体で、設定のみまたは完全バックアップと復元のいずれかを実行することもできます。
- ローカル バックアップまたはリモート バックアップのいずれかを実行できます。
- 手動でバックアップを実行することも、バックアップ スケジューラを使用して次のことをスケジュールすることもできます。
 - スケジューラを開始する日。
 - スケジューラを開始する日。
 - バックアップを実行する頻度。

NDI 6.5.1 より前の NDI のバックアップと復元

NDI 6.5.1 より前は、NDI 展開のバックアップと復元として、構成のインポートとエクスポートのプロセスを使用していました。インポートとエクスポートは、NDI GUI の **[管理 (Administration)]** > **[構成のインポート/エクスポート (Configuration Import/Export)]** に移動して実行します。

NDO 4.4.1 より前の NDO のバックアップと復元

NDO 4.4.1 より前は、ACI および NDFC ファブリックで NDO のバックアップと復元を利用できました。両方のタイプのファブリックの場合：

- バックアップと復元を、NDO GUI で **[管理 (Administration)]** > **[バックアップと復元 (Backup and Restore)]** に移動して実行しました。
- ローカルバックアップオプションはありませんでした。リモートバックアップのみを実行できます。
- バックアップスケジューラを使用して、次のスケジュールを作成できます。
 - スケジューラを開始する日。
 - スケジューラを開始する日時。
 - バックアップを実行する頻度。

統合 ND 3.2.1 リリースでのバックアップと復元の実装方法

この ND 3.2.1 リリースでは、統合バックアップと復元が ND レベルで使用できるため、その ND で実行されている ND と、その ND で実行されている任意のサービス (NDFC、NDI、NDO など) の構成をバックアップおよび復元できます。統合バックアップと復元を実行するには、ND GUI で **[管理 (Administration)]** > **[バックアップと復元 (Backup and Restore)]** に移動します。

- [ND 3.2.1 で始まる ND のバックアップと復元](#)
- [NDFC 12.2.2 で始まる NDFC のバックアップと復元](#)
- [NDI 6.5.1 以降の NDI のバックアップと復元](#)
- [NDO 4.4.1 以降の NDO のバックアップと復元](#)

ND 3.2.1 で始まる ND のバックアップと復元

ND 3.2.1 リリースで導入された統合バックアップと復元機能により、ND 構成だけがバックアップおよび復元される ND バックアップおよび復元機能は使用できなくなりました。代わりに、ND レベルで実行されるバックアップと復元では、ND の構成情報だけでなく、その ND で実行されているすべてのサービス (NDI、NDO、NDFC など) もバックアップされます。

NDFC 12.2.2 で始まる NDFC のバックアップと復元

ND 3.2.1 リリースで導入された統合バックアップおよび復元機能により、NDFC のバックアップおよび復元機能は基本的に次のレベルで提供されます。

- **下位レベルのファブリックレベル**：NDFC 内の個々の LAN および SAN ファブリックの場合、バックアップおよび復元機能は、ND 3.2.1/NDFC 12.2.2 リリース以前と同様に、NDFC GUI 内で引き続き提供されます。「[LAN 運用モード設定のバックアップと復元](#)」を参照してください。

詳細については、「[SAN 運用モード設定のバックアップと復元](#)」を参照してください。

- ・ **上位レベルの NDFC レベル**：ND 3.2.1/NDFC 12.2.2 リリース以降、NDFC GUI を使用した NDFC レベルでバックアップと復元は行われず、代わりに ND GUI を介した統合バックアップおよび復元機能を使用して、このレベルでバックアップおよび復元します。

次の表に、NDFC 12.2.2 より前の NDFC と、NDFC から入手可能な統合バックアップと復元を使用した NDFC のバックアップと復元の動作の主な違いに関する詳細を示します。

12.2.2 以降では無効。

NDFC バックアップ/復元 (Backup/Restore) 機能	12.2.2 より前の動作	12.2.2 以降の動作
リモートリ ポジトリ	バックアップまたは復元を実行するた びに、NDFC GUI を使用してリモート リ ポジトリ情報を入力します。	リモート ロケーション (リポジトリ) 情 報は、最初の統合バックアップと復元プ ロセスの前に、ND GUI の中央の領域 ([管理 (Administration)] > [システム設 定 (System Settings)]) で 1 回だけ入力 します。このリモート ロケーション情報 は、統合バックアップと復元を含む、リ モート ロケーションを使用するすべての 機能によって参照されます。詳細につい ては、「 リモート ストレージの場所の 設定 」を参照してください。
使用可能なバック アップ の リス ト	使用できません。実行された操作の履歴 のみが保持され、ローカル バックアップ をダウンロードするためのリンクのみが 使用されます。	使用可能なローカル バックアップまたは リモート バックアップのリストは、ND GUI を介して管理されます。
使用可能なバック アップのリストか ら復元する機能	未サポートバックアップから復元するに は、ローカルバックアップもダウンロード してアップロードする必要があります。	サポート。復元するには、ND GUI のリス トからバックアップを選択するだけで す。
[履歴 (History)] ペ ージ	バックアップの日付、タイプ、名前など の制限付きの情報を使用して、NDFC GUI を介してサポートされます。	ND GUI でサポートされます。実行された すべての操作とそのステータスのリスト が表示されます。
スケジュー ルバックア ップ	NDFC GUI でサポート。ただし、スケジュー ルされたバックアップは 1 つのみサポ ートされます。	ND GUI でサポートされます。2 つのスケ ジュールバックアップがサポートされて います。
ファブリックレベル のバックアップ/復 元	NDFC GUI を介してすべての NDFC ファブ リックで使用できます。	NDFC GUI を介してすべての NDFC ファブ リック (マルチクラスタ、マルチサイト (MSD)、スタンドアロン ファブリック を含む) で使用可能。ただし、ND GUI か ら利用可能なファブリック グループ フ ァブリック タイプは除く。
NDFC レベルのバック アップ/復元	NDFC GUI で利用できます。	統合バックアップと復元機能を使用して ND GUI で使用できます。

NDI 6.5.1 以降の NDI のバックアップと復元

ND 3.2.1 リリースで導入された統合バックアップおよび復元機能を使用して ND レベルで構成をバックアップおよび復元する場合でも、[NDI レベルでの構成の既存のインポートおよびエクスポート](#) プロセスは、引き続き NDI 展開のバックアップおよび復元に使用できます。これは、NDI 6.5.1 リリースより前のリリースから NDI のバックアップを復元する場合に必要です。

次に例を示します。

- NDI リリース 6.5.1 以降を実行しているときに構成をバックアップし、そのバックアップから復元する場合は、このドキュメントで説明されている新しい統合バックアップおよび復元機能を使用します。
- ただし、6.5.1 より前の NDI リリースを実行していたときに設定をバックアップしていて、そのバックアップから復元する場合は、[NDI レベルで設定の既存のインポートおよびエクスポート](#) プロセスを使用して、そのバックアップを復元します。

NDO 4.4.1 以降の NDO のバックアップと復元

ND 3.2.1 リリースで導入された統合バックアップおよび復元機能により、NDO GUI を介した NDO バックアップおよび復元機能は利用できなくなりました。代わりに、すべての NDO バックアップおよび復元機能は ND レベルで実行され、ND の構成情報だけでなく、その ND で実行されているすべてのサービス（NDO など）もバックアップされます。

ただし、復元プロセスで使用する NDO 4.4.1 より前のリリースからのバックアップがある場合、新しい **構成インポート** 機能が NDO で利用できるようになりました。これにより、バックアップを NDO リリース 3.7.2 からリリース に復元できます。4.3.1. これらの手順については、[ACI](#) および [NDFC](#) ファブリックに関する *Nexus Dashboard Orchestrator* のバックアップと復元の記事を参照してください。

次に例を示します。

- NDO リリース 4.4.1 以降を実行していたときに設定をバックアップしていて、そのバックアップから復元する場合は、このドキュメントで説明しているように、新しい統合バックアップと復元機能を使用します。
- ただし、NDO リリース 3.7.2 からリリース 4.3.1 に実行していたときに設定をバックアップし、そのバックアップから復元する場合は、*Nexus Dashboard Orchestrator* で説明されているように、NDO の新しい **設定のインポート** 機能を使用します。そのバックアップを復元するには、「バックアップと復元」の手順を参照してください。

リモート ストレージ ロケーションの構成

リモート ストレージ ロケーション情報は、統合バックアップと復元を含む、リモート ストレージ ロケーションを使用するすべての機能によって参照されます。

1. ND GUI で、**[管理 (Admin)] > [システム設定 (System Settings)]** に移動し、**[リモート ストレージ ロケーション (Remote Storage Locations)]** タブをクリックします。

- リモート ストレージ ロケーションがまだ作成されていない場合は、**[リモート ロケーションが見つかりません (No Remote Locations Found)]** というメッセージがページに表示されます。
- リモート ストレージ ロケーションがすでに作成されている場合は、それらのリモート ストレージ ロケーションが次の値でリストされます。

フィールド	説明
名前	リモート ストレージ ロケーションの名前。
IP アドレス (IP Address)	リモート ストレージ ロケーションの IP アドレス。
プロトコル	リモート ストレージ ロケーションのタイプ： • NAS ストレージ • SFTP
ステータス	リモート ストレージ ロケーションのステータス。
使用者	リモート ホスト ロケーションの使用者に関する情報を提供します。
[ユーザ名 (Username)]	リモート ロケーションのユーザー名。
リモート ス ファイル名	リモート ホスト ロケーションへの絶対ファイルパス。
許可アプリケーション	このリモート ロケーションの使用を許可されている ND アプリを示します。

2. リモート ストレージ ロケーションの作成

- リモート ストレージの場所がまだ作成されていない場合は、**[リモート ストレージの場所の追加 (Add Remote Storage Location)]** ボタンが表示されます。
- このページにリモート ストレージ ロケーションがリストされている場合は、表示される**[リモート ストレージ ロケーションの作成 (Create Remote Storage Location)]** ボタンをクリックします。

[リモート ストレージ ロケーションの作成 (Create Remote Storage Location)] ウィンドウが表示されます。

3. リモート ストレージ ロケーションの構成に必要な情報を入力します。

フィールド	説明
名前	リモート ストレージ ロケーションの名前を入力します。
説明	(オプション) リモート ストレージ ロケーションの説明を入力します。

フィールド	説明
リモート ストレージロケーションのタイプ	リモートストレージロケーションのタイプとして SFTP/SCP Server を選択します。 ☐ 前述のように、リモートストレージの場所の情報は、統合バックアップと復元だけでなく、リモートストレージの場所を使用するすべての機能によって参照されます。NAS ストレージは [Create Remote Storage Location]でオプションとして提供されていますが、統合バックアップと復元機能ではサポートされていません。

上記の **[リモートストレージロケーションタイプ (Remote Storage Location Type)]** フィールドで **[SFTP/SCP サーバー (SFTP/SCP Server)]** オプションを選択した場合は、次の表の情報を活用します。

フィールド	説明
プロトコル	リモートストレージロケーションのファイル転送に使用するプロトコルを選択します。 • SFTP • SCP
ホスト名 または IP アドレス	リモートロケーションのホスト名または IP アドレスを入力します。
デフォルトパス	バックアップファイルが保存されるリモートサーバのパスを指定します。 パスはスラッシュ(/ または \)文字で始まるか、絶対パスである必要があります。例： /backups/multisite または： Users/backups/multisite
リモートポート (Remote Port)	リモートホストロケーションのリモートポートを入力します。このフィールドには、デフォルト値の 22 が、事前に入力されます。
許可タイプ	許可タイプを選択します。 • パスワード • SSHパブリックタイプ
ユーザー名	認証ユーザ名を入力します。
パスワード	上記の [認証タイプ (Authorization Type)] フィールドで [パスワード (パスワード)] を選択した場合に使用できます。認証パスワードを入力します。

フィールド	説明
SSHキー	上記の 【認証タイプ (Authorization Type)】 フィールドで 【SSH パブリックタイプ (SSH Public Types)】 を選択した場合は、【SSH キー (SSH Key)】 フィールドと 【パスフレーズ (Passphrase)】 フィールドを使用できます。 SSH キーを使用するには、次の手順を実行する必要があります。
パスフレーズ	1. 秘密キーと公開キーのペアを生成します（パスフレーズの有無にかかわらず）。 2. リモートストレージロケーションで生成された公開キーを承認します。 3. 【SSH Key】 フィールドに秘密キーを入力します。 4. 【パスフレーズ (Passphrase)】 フィールドにパスフレーズ（ステップ 1 で使用した場合）を入力します。

4. **【保存 (Save)】** をクリックします。

【リモートストレージロケーション (Remote Storage Locations)】 ページに戻り、新しく作成されたリモートストレージロケーションがテーブルに表示されます。

- リモートストレージロケーションエントリを編集するには、そのリモートストレージロケーションのテーブルの行の末尾にある省略記号 (...) をクリックし、**【編集 (Edit)】** をクリックします。
- リモートストレージロケーションエントリを削除するには、テーブル内のそのリモートストレージロケーションの行の末尾にある省略記号 ([...]) をクリックし、**【削除】** をクリックします。

暗号化キーの処理

バックアップ プロセスの特定の時点で、バックアップ ファイルの暗号化に使用される暗号化キーを入力するように求められます。後でその同じ暗号化キーを使用して、そのバックアップを復元します。

バックアップ プロセスの一部として暗号化キーを入力する場合は、その暗号化キー情報を失わないようにする必要があります。暗号化キーが失われた場合、その暗号化キーがないとバックアップを復元できないため、バックアップは役に立ちません。

ND およびサービス構成のバックアップと復元

次のセクションでは、ND およびサービス構成をバックアップおよび復元する方法について説明します。

- [ガイドライン](#)
- [ND およびサービス構成のバックアップ](#)
- [ND およびサービス構成の復元](#)

ガイドライン

以下は、ND およびサービス構成のバックアップと復元に関するガイドラインです。

- このリリースで導入された統合バックアップと復元機能には、特に次のガイドラインが適用されます。
 - ND の統合バックアップと復元機能は、同じバージョンの ND 間でのみサポートされます。ND のバージョン X でバックアップを実行してから、ND のバージョン Y で復元することはできません。
 - バックアップを復元した後、パスワードがバックアップが収集された古いパスワードに変更される場合があります。たとえば、**password-1**で実行しているクラスタがある場合にバックアップを実行し、パスワードを **password-2**に変更します。その後、バックアップ復元プロセスを実行すると、復元プロセスが完了した後で、パスワードが以前の **password-1** のパスワードに戻ります。
 - バックアップを実行すると、その時点で Nexus Dashboard に含まれていたすべてのサービス（ND および [サービス構成のバックアップ](#)で説明されているように、**[現在の展開モード (Current Deployment Mode)]** にリストされているすべてのサービス）がバックアップされます。その特定のバックアップから復元を実行すると、そのバックアップのすべての展開からすべての情報が復元されます。

たとえば、バックアップを実行するときに、**[現在の展開モード (Current Deployment Mode)]** にリストされているサービスとして Insights と Orchestrator があるとします。この特定のバックアップを使用して、後で復元プロセスを実行すると、そのバックアップに含まれていたサービスの両方の設定が復元されます。
 - 「[スケジュールバックアップの構成](#)」で説明されているスケジュールバックアップでは、最大 2 つのスケジュールバックアップがサポートされます。
- 次に、NDFC 構成のバックアップと復元に関する注意事項を示します。
 - あるシステムでバックアップを作成し、異なる管理サブネットやデータサブネットを持つ別のシステムに復元する場合は、「[ND とサービスの設定の復元](#)」の説明に従って、**[外部サービスの IP 設定を無視する (Ignore External Service IP Configuration)]** チェックボックスをオンにします。
 - NDFC には、**構成のみ** と **完全** の 2 つのバックアップおよび復元オプションがあります。バックアップからの復元を実行する場合：
 - 機能が有効になっており、その他の状態が存在する既存の NDFC 展開で、**構成のみ**の復元を実行できます。
 - 新しくインストールされたクラスタでのみ **完全な** 復元を実行するか、「[Nexus ダッシュボードのトラブルシューティング](#)」で説明されているように、**完全な** 復元を実行する前にクラスタで **acs reboot clean** を実行する必要があります。

ND およびサービス構成のバックアップ

次のセクションでは、ND サービスと構成をバックアップする方法について説明します。

- [ND およびサービス構成の手動バックアップ](#)
- [スケジュール バックアップの構成](#)
- [バックアップ履歴の表示](#)

ND およびサービス構成の手動バックアップ

1. 管理コンソール GUI の統合バックアップと復元ページに移動します。

[管理 (Admin)] > [バックアップと復元 (Backup and Restore)]

すでに構成されているバックアップは、[バックアップ (Backups)] ページに表示されます。

2. [バックアップの作成 (Create Backup)] をクリックします。

[バックアップの作成 (Create Backup)] ペインが表示されます。

3. [現在の展開モード (Current Deployment Mode)] エリアに表示される情報を確認します。

このエリアには、この Nexus Dashboard で現在実行されているサービスが表示されます。統合バックアップと復元では、このエリアに表示されるすべてのサービスがバックアップされることに注意してください。Nexus Dashboard 内でバックアップする個々のサービスを選択することはできません。

4. [名前 (Name)] フィールドで、このバックアップの名前を入力します。
5. [タイプ (Type)] フィールドで、[構成のみ (Config-Only)] または [フル (Full)] バックアップのどちらが必要かを決定します。



NDI では、完全バックアップのタイプはサポートされていません。NDI システムのバックアップ時に完全バックアップのタイプを選択すると、実際には代わりに設定専用バックアップが実行されます。

- **Config-Only** : Config-Only バックアップは、以下で説明するフルバックアップよりも小さくなります。バックアップされるサービスに応じて、次の構成データが含まれます。
 - **Insights** : コンプライアンス ルール、設定、およびその他の構成済みパラメータ
 - **Orchestrator** : テンプレート、設定、およびその他の構成済みパラメータ。
 - **Fabric Controller** : スケジュール、テンプレート、ポリシー、およびその他の構成済みパラメータ。
- **Full** : 完全バックアップは大規模です。構成のみのバックアップのすべてに加えて、フル バックアップには、統計、カウンタなどの運用データも含まれます。運用データはファブリック コントローラにのみ適用され、他のサービスでは構成のみがバックアップされます。

[フル (Full)] バックアップ タイプを使用して保存されたバックアップを復元する場合は、構成のみの復元またはフルの復元のいずれかを実行できます。既存の構成があるクラスタでは完全復元を実行できないことに注意してください。この場合、既存の構成がない新しいクラスタでバックアップを復元する必要があります。

6. [接続先 (Destination)] フィールドで、ローカルバックアップまたはリモートバックアップのどちらを使用するかを決定します。
 - **ローカル ダウンロード** : バックアップデータはローカルクラスタに保存されます。



ローカルバックアップは常に 1 つのみに制限されます。

[暗号キー (Encryption Key)] フィールドにバックアップ ファイルに対する暗号キーを入力します。

バックアップから復元するには、暗号キーが必要です。詳細については、「[暗号化キー の処理](#)」を参照してください。

○ **[リモート ロケーション (Remote Location)]** : バックアップ データはリモートの場所に保存されます。

a. **[リモート ロケーション (Remote Location)]** フィールドで、リストからすでに構成されているリモート ロケーションを選択するか（使用可能な場合）、**[リモート ロケーションの作成 (Create Remote Location)]** をクリックします。

[リモート ロケーションの作成 (Create Remote Location)] をクリックした場合は、「[リモート ロケーションの構成 \(Configuring Remote Locations\)](#)」の手順に従ってから、ここに戻ります。

b. **[リモート パス (Remote Path)]** フィールドに、リモート バックアップのリモート経路を入力します。

c. **[暗号キー (Encryption Key)]** フィールドにバックアップ ファイルに対する暗号キーを入力します。

バックアップから復元するには、暗号キーが必要です。詳細については、「[暗号化キー の処理](#)」を参照してください。

7. **[すぐにバックアップ (Backup Now)]** をクリックします。

メインの **[バックアップ (Backups)]** ページに戻り、構成したバックアップが表示されます。

8. **[ステータス (Status)]** 列に表示される情報を活用して、バックアップのステータスをモニターします。

バックアップの進行中は、最初はバックアップのステータスとして **[進行中 (In Progress)]** と表示されます。**[詳細の表示 (View Details)]** をクリックして、バックアップされている領域の詳細とバックアップの進行状況を表示します。

しばらくすると、**[ステータス (Status)]** が最初に 100% に変わり、その後 **[成功 (Success)]** に変わります。

9. **[名前 (Name)]** 列のリンクをクリックすると、この特定のバックアップに含まれるサービスや、実行されたバックアップのタイプ（構成のみまたはフル）など、そのバックアップに関する追加情報がディスプレイされます。

[アクション (Actions)] ドロップダウンをクリックして、このウィンドウから次のアクションを実行することもできます。

- **削除 (削除)** : バックアップを削除するには、このオプションを選択します。
- **ダウンロード (Download)** : バックアップをローカル フォルダにダウンロードするには、このオプションを選択します。
- **復元 (Restore)** : バックアップされた構成を復元するには、このオプションを選択します。詳細については、「[ND およびサービス構成の復元](#)」を参照してください。

メインの **[バックアップ (Backups)]** ページで、リストされている任意のバックアップの省略記号 ([...]) をクリックして、任意のバックアップに対して同じアクションを実行することもできます。

スケジュールバックアップの構成

1. 管理コンソール GUI の統合バックアップと復元ページに移動します。

[管理 (Admin)] > **[バックアップと復元 (Backup and Restore)]**

すでに構成されているバックアップは、[バックアップ (Backups)] ページに表示されます。

2. [バックアップ スケジュール (Backup Schedules)] タブをクリックします。

構成済みのスケジュールされたバックアップが一覧表示されます。

3. [バックアップ スケジュールの作成 (Create Backup Schedule)] をクリックします。

[バックアップの作成 (Create Backup)] スライダが表示されます。

4. [現在の展開モード (Current Deployment Mode)] エリアに表示される情報を確認します。

このエリアには、この Nexus Dashboard で現在実行されているサービスが表示されます。統合バックアップと復元では、このエリアに表示されるすべてのサービスがバックアップされることに注意してください。Nexus Dashboard 内でバックアップする個々のサービスを選択することはできません。

5. [名前 (Name)] フィールドで、このバックアップの名前を入力します。

6. [タイプ (Type)] フィールドで、[構成のみ (Config-Only)] または [フル (Full)] バックアップのどちらが必要かを決定します。

- **Config-Only** : Config-Only バックアップは、以下で説明するフルバックアップよりも小さくなります。バックアップされるサービスに応じて、次の構成データが含まれます。
 - **Insights** : コンプライアンス ルール、設定、およびその他の構成済みパラメータ
 - **Orchestrator** : テンプレート、設定、およびその他の構成済みパラメータ。
 - **Fabric Controller** : スケジュール、テンプレート、ポリシー、およびその他の構成済みパラメータ。
- **Full** : 完全バックアップは大規模です。構成のみのバックアップのすべてに加えて、フル バックアップには、統計、カウンタなどの運用データも含まれます。運用データはファブリック コントローラにのみ適用され、他のサービスでは構成のみがバックアップされます。

[フル (Full)] バックアップ タイプを使用して保存されたバックアップを復元する場合は、構成のみの復元またはフルの復元のいずれかを実行できます。既存の構成があるクラスタでは完全復元を実行できないことに注意してください。この場合、既存の構成がない新しいクラスタでバックアップを復元する必要があります。

7. [リモート ロケーション (Remote Location)] フィールドで、リストからすでに構成されているリモート ロケーションを選択するか (使用可能な場合)、[リモート ロケーションの作成 (Create Remote Location)] をクリックします。

[リモート ロケーションの作成 (Create Remote Location)] をクリックした場合は、「[リモート ストレージ ロケーションの構成 \(Configuring Remote Storage Locations\)](#)」の手順に従ってから、ここに戻ります。

8. [リモートパス ファイル名 (Remote Path Filename)] フィールドに、リモートバックアップのリモート経路を入力します。

9. [暗号キー (Encryption Key)] フィールドにバックアップファイルに対する暗号キーを入力します。

バックアップから復元するには、暗号キーが必要です。詳細については、「[暗号化キー の処理](#)」を参照してください。

10. [スケジューラ (Scheduler)] エリアで、バックアップ スケジュールに使用する日時を選択します。

11. [頻度 (Frequency)] エリアで、スケジュールされたバックアップの頻度を設定します。

- 毎日
- 7日ごと
- 30日ごと

12. [作成 (Create)] をクリックします。

[バックアップ スケジュール (Backup Schedules)] ページに戻り、テーブルに新しく作成されたバックアップ スケジュール

[名前 (Name)] 列のエントリをクリックすると、スケジュール済みバックアップの詳細を表示できます。
[接続先 (Destination)] 列のエントリをクリックして、リモート ロケーションの詳細を表示することもできます。

- バックアップ スケジュール エントリを編集するには、そのバックアップ スケジュール エントリのテーブルの行の末尾にある省略記号 (...) をクリックし、[編集 (Edit)] をクリックします。
- バックアップ スケジュール エントリを削除するには、そのバックアップ スケジュール エントリのテーブルの行の末尾にある省略記号 (...) をクリックし、[削除 (Delete)] をクリックします。

バックアップ履歴の表示

1. 管理コンソール GUI の統合バックアップと復元ページに移動します。

[管理 (Admin)] > [バックアップと復元 (Backup and Restore)]

すでに構成されているバックアップは、[バックアップ (Backups)] ページに表示されます。

2. [履歴 (History)] タブをクリックします。

バックアップの履歴が次の情報とともに表示されます。

- [名前 (Name)] : バックアップの名前。
- [日付 (Date)] : バックアップに関してアクションが実行された日付。
- [アクション (Action)] : バックアップに対して実行されたアクション (作成済み、削除済み、ダウンロード済み、復元済み、更新済みなど)。
- [タイプ (Type)] : バックアップのタイプ ([Config-Only] または [Full]) 。
- [詳細 (Details)] : 特定のバックアップに関する追加の詳細。
- [ユーザー (User)] : 特定のバックアップに関連付けられているユーザー。
- [ステータス (Status)] : [成功 (Success)]、[進行中 (In Progress)]、[失敗 (Failure)] などのバックアップのステータス。

ND およびサービス構成の復元

1. バックアップから復元する前に、NDO ファブリックをオンボードする必要があるかどうかを判断します。

これらの手順では、以前に作成した統合バックアップから復元します。統合バックアップが作成された時点で NDO サービスが ND の一部であった場合は、これらの復元プロセスを開始する前に NDO ファブリックをオンボードする必要があります。

2. 管理コンソール GUI の統合バックアップと復元ページに移動します。

[管理 (Admin)] > [バックアップと復元 (Backup and Restore)]

すでに構成されているバックアップは、[バックアップ (Backups)] ページに表示されます。

3. 次のいずれかの方法を使用して、[復元 (Restore)] スライド ページにアクセスします。

- 復元するバックアップの省略記号 ([...]) をクリックし、**[復元 (Restore)]** を選択します。または、
- メインの **[バックアップと復元 (Backup and Restore)]** ページの右上隅にある **[復元 (Restore)]** をクリックします。**[復元 (Restore)]** スライド ページが表示されます。

4. 該当する場合、**[送信元 (Source)]** フィールドで、復元するバックアップの場所を決定します。



特定のバックアップの省略記号 ([...]) をクリックしてバックアップを復元する場合、このフィールドは編集できません。

- 構成バックアップテーブルのアップロード：**[バックアップ ファイル (Backup File)]** エリアが表示され、復元するローカルバックアップファイルをドラッグアンドドロップするか、システム上のローカルエリアに移動して復元するバックアップファイルを選択できます。

- リモート ロケーション：

- a. **[リモート ロケーション (Remote Location)]** フィールドで、リストからすでに構成されているリモート ロケーションを選択するか（使用可能な場合）、**[リモート ロケーションの作成 (Create Remote Location)]** をクリックします。

[リモート ロケーションの作成 (Create Remote Location)] をクリックした場合は、「**リモート ロケーションの構成 (Configuring Remote Locations)**」の手順に従ってから、ここに戻ります。リモート バックアップ プロセスの一部としてリモート ロケーションを構成しますが、リモート バックアップを構成したクラスタとは異なるクラスタにいる場合、復元プロセスの一部としてリモート ロケーションを設定する必要がある場合があります。この場合、この時点でリモート ロケーションを再度設定します。これにより、システムは、他のクラスタで構成したリモート バックアップを検出できるようになります。

- b. **[リモート パス (Remote Path)]** フィールドに、リモート バックアップが存在するリモート 経路を入力します。

5. **[暗号キー (Encryption Key)]** フィールドにバックアップ ファイルに対する暗号キーを入力します。

詳細については、「**暗号化キーの処理**」を参照してください。

6. **[検証 (Validation)]** エリアのバックアップの行で、**[検証してアップロード (Validate and Upload)]** をクリックします。



誤った暗号化キーを入力した場合は、検証プロセス中にエラーが発生したことを示すエラー メッセージが表示されます。バックアップ ファイル名が表示されている回線のごみ箱をクリックして検証試行を削除し、再試行します。

7. 検証の進行状況バーに 100% が表示されると、**[次へ (Next)]** ボタンが現用系になります。登録手続きを開始するには、

[次へ (Next)] をクリックします。

[復元 (Restore)] ウィンドウが表示され、次の情報が表示されます。

- 現在の展開モード
- バックアップ ファイルの展開モード。復元プロセスが完了した後のシステムの展開モードになります。
- バックアップ ファイルが最初に設定されたときに使用されたバックアップのタイプ（完全または構成のみ）

8. (オプション) **[外部サービス IP 構成を無視する (Ignore External Service IP Configuration)]** チェックボックスをオンにします。

[外部サービスの IP 構成を無視する (Ignore External Service IP Configuration)] チェック ボックスがオンになっている場合、外部サービスの IP 構成は無視されます。この選択により、システムでバックアップを作成し、それを別の管理サブネットやデータサブネットを持つ別のシステムに復元することができます。

9. [復元 (Restore)] をクリックします。

復元プロセスを開始することを確認する警告ウィンドウが表示されます。復元プロセスの実行中は、Nexus Dashboard の機能にアクセスできません。復元プロセスには数分かかる場合があります。

10. 警告ウィンドウで [復元 (Restore)] をクリックして、復元プロセスを続行します。

別のウィンドウが表示され、復元プロセスの進行状況が表示されます。[タイプ (Type)] 列のエントリの横にある矢印をクリックすると、復元プロセスの詳細が表示されます。

11. 復元プロセスが成功すると、[進行状況 (Progress)] に 100% が表示され、[履歴の表示 (View History)] ボタンが現用系になります。

[履歴の表示 (View History)] をクリックして [バックアップと復元 (Backup and Restore)] ウィンドウの [履歴 (History)] エリアに移動すると、復元プロセスが表示され、[ステータス (Status)] 列に [成功 (Success)] と表示されます。

統合バックアップを使用して設定を復元した後のタスク

- [ND タスク](#)
- [NDI タスク](#)
- [NDFC タスク](#)

ND タスク

複数の Nexus ダッシュボード クラスタ間の接続（「フェデレーション」とも呼ばれます。『[Nexus Dashboard Infrastructure Management](#)』の「マルチクラスタ接続」で説明されています）の場合は、復元プロセスが完了した後にクラスタを再登録する必要があります。

このための全体的な手順は次のとおりです。

1. クラスタを起動し、フェデレーションに追加します。

『[Nexus Dashboard Infrastructure Management](#)』の「複数のクラスタの接続」を参照してください。

2. プライマリ クラスタでバックアップを作成します。

「[ND およびサービス構成のバックアップ](#)」を参照してください。

3. プライマリクラスタでクリーンリブートを実行しま

す。『[Cisco Nexus Dashboard Infrastructure Management](#)』を参照してください。

4. プライマリ クラスタでバックアップを復元します。

「[ND およびサービス構成の復元](#)」を参照してください。

5. 復元後、プライマリ クラスタにすべてのクラスタを再登録します。

『[Cisco Nexus Dashboard Infrastructure Management](#)』を参照してください。

NDI タスク

新しい統合バックアップと復元機能の一部として、新しい再同期ワークフローが **NDI** レベルで導入され、**NDI** ファブリック ステータスを同期状態に戻します。新しい統合バックアップと復元を使用して構成を復元した後、特定の再同期タスクを実行する必要があります。

新しい **ND** 統合バックアップおよび復元機能を使用してバックアップされた構成を復元した後、**ND** レベルで表示される **NDI** ファブリックの状態が、**NDI** ファブリックの実際の状態と同期していない可能性があります。例として、次のシナリオを考えます。

1. ファブリックでソフトウェアテレメトリが有効になっており、テレメトリ設定がファブリックにプッシュされます。
2. 次に、新しい統合バックアッププロセスを使用してバックアップを取得します。
3. その後、テレメトリを無効にし、ファブリックから構成を削除するとします。
4. 次に、この記事で説明されているように、バックアップ復元プロセスを実行します。その後、**NDI** 設定ではソフトウェアテレメトリが有効と表示されますが、ファブリックには同じステータスがありません。

NDI ファブリックのステータスを同期状態に戻すには、**NDI GUI** に移動し、**NDI 6.5.1** リリースで導入された新しい **NDI** 再同期操作を使用して、各 **NDI** ファブリックまたはすべての **NDI** ファブリックで再同期操作を実行します。これにより、**NDI** ファブリック上の既存の構成がクリーンアップされ、新しい構成がすべて **NDI** からファブリックにプッシュされます。

NDI GUI で再同期操作を実行する前に、**NDFC** の **NX-OS** ファブリックに属するすべてのスイッチが次のいずれかの状態になっている必要があります。

- InSync
- OutOfSync
- 保留中

そうしないと、再同期操作は失敗し、ファブリックの準備ができていないというメッセージが表示されます。再同期操作を続行する前に、スイッチをこれらの状態にする必要があります。

最初のクラスタが **NDFC** をホストし、2 番目のクラスタが **NDI** をホストするコロケーション シナリオでは、最初のクラスタ (**NDFC** リリース **12.2.2** 以降で実行中) が復元された場合、すべてのファブリックがリモートでオンボードされます。リモート **NDI** クラスタは **OutOfSync** 状態に移行します。この場合、再同期操作を実行して、ファブリックを **NDI** と同期状態に戻す必要があります。この前提条件は、最初のクラスタが **NDFC 12.2.2** より前のリリースである場合には当てはまりません。

NDI で **Netflow** が設定されている場合、**NDI** または **NDFC** の復元プロセス中に、インテントが **NDFC** から消去されている場合、再同期をトリガーすると、これらの **Netflow** 設定がスイッチから消去されます。構成を復元するには、適宜インテントを **NDFC** に追加し直す必要があります。

NDFC タスク

同様に、**NDFC** の場合、新しい **ND** 統合バックアップおよび復元機能を使用してバックアップされた構成を復元した後、**ND** レベルで表示される **NDFC** ファブリックの状態が、**NDFC** ファブリックの実際の状態と同期していない可能性があります。**NDFC** ファブリックのステータスを同期中に戻すには、**[ファブリック概要 (Fabric Overview)]** ページで、ページ上部の **[アクション (Actions)]** をクリックし、**[再計算と展開 (Recalculate and Deploy)]** を選択します。

このマニュアルに記載されている製品に関する仕様と情報は、

予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任となります。

対象製品のソフトウェア ライセンスと限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されており、この参照により本マニュアルに組み込まれるものとします。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) のパブリック ドメイン バージョンとして、UCB が開発したプログラムを採用したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記代理店は、商品性、特定目的適合、および非侵害の保証、もしくは取り引き、使用、または商慣行から発生する保証を含み、これらに限定することなく、明示または黙示のすべての保証を放棄します。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアルの中の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際の IP アドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco および Cisco のロゴは、Cisco またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

商標または登録商標です。Cisco の商標の一覧は、<https://www.cisco.com/go/trademarks> でご確認ください。記載されているサードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。「パートナー」という言葉が使用されていても、シスコと他社の間にパートナー関係が存在することを意味するものではありません。(1110R)。

© 2017-2024 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.